
黒崎一護観察日記

五十嵐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒崎一護観察日記

【Nコード】

N4566R

【作者名】

五十嵐

【あらすじ】

黒崎一護を腐った目線で観察しているクラスメイトの日記。

（前書き）

BL要素が含まれていますので、**閲覧注意**。

今日の黒崎一護も総受全開だった。

黒崎一護観察日記。

入学した頃はとがっていたように見えた黒崎一護だが、日も経っていないうちに友人ができた模様。

やはり黒崎の魅力に抗えるものはいないようだ。

事実、黒崎率いる仲良し4人組（以下：黒崎組）に羨ましがな目線を送っている某優等生眼鏡がいる。

最初の頃は別の意味で黒崎を見ているように思えたが、俺の当初の予想通り、ヤツも黒崎に落ちたようだ。

全く黒崎の受けオーラには頭が下がる思いだ。

今日、いつもと同じように登校した黒崎に真っ先に挨拶をしたのは、浅野だった。

こいつはいつもハイテンションでスキンシップが多めだ。

一見、周りよりも一歩リードしているように見えるが、黒崎自身はめんどくさそうに應對しているし、くつついたらすぐに小島水色に引き剥がされている。

黒崎も「サンキュ水色」なんて言っている事から、見事に利用されているようにしか見えない。

浅野はきつと真面目に告白しても冗談と思われ流されてしまうタイプだろう。

哀れなヤツだ。

だが、がんばれ浅野。俺は応援している。

俺の萌の為に。

浅野を引き剥がして黒崎と談笑しているのが、小島だ。

こいつは絶対腹黒だ。

俺のセンサーが反応している。

にこにこ後ろで見守っているように見えて、一番良いところを搔っ攫って行くタイプだろう。

だから黒崎の高校からの友達で一番信頼を得ているのはコイツだと思う。

朝も一緒に来ているようだ。なんという手回しの早さ。

そつえば浅野は空座市民でなく、並木市民だ。

どこまでも哀れなヤツだ。がんばれ浅野。

俺的に、小島は間違いなく攻め属性だが、いかんせん身長がしつくり来ない。

やはり黒崎と絡むならガタイの良い奴が良い。

特に意味は無いが、やはり見るのは自分の好みのモノを見たい。

まあ小島は年上キラらしいから、テクに関しては心配要らないだろう。

小島は、告白よりもまず既成事実を作りそうだな。

それはそれでオイシイ。

がんばれ小島。

俺の萌えの為に。

お、茶渡が登校してきた。

やはりまっすぐに黒崎のもとに向かっている。

黒崎の満面の笑みの挨拶を受けて、いつも無表情な顔が嬉しそうだ。中学からずっと仲の良い茶渡はやっぱ他の二人とは黒崎の接し方も違うように見える。

まあ背中を預けて戦っていたくらいだから親友のようなものだろうし、二人の間には特別な約束事もあるようだ。

・・・素晴らしい。

ガタイもいいし、黒崎との信頼関係も築けている。

まさに理想の攻めだ。

だが、そんな茶渡にも一つ問題がある。

それは、積極性だ。

自分から行動を起こそうという気があるように見えない。

現状維持が一番望ましいと思っているのだろう。

・・・つまらない。

茶渡の力なら押し倒すことだって無理矢理やる事だって簡単だろうに。

黒崎も最後は受け入れてしまいそうだ。

何故それをしないのだ・・・。

がんばれ茶渡。押して押して押し捲るんだ。

俺の萌えの為に。

ああ、越智さんが来てしまった。

見つからないように書くことは可能だが、今日は現国がある。

もし見つかってしまったら、間違いなく朗読させられる。

俺は別に構わないが、黒崎たちはきつと意識してしまって距離を置くようになってしまっただろう。

それだけは避けたい。なんとしても。

この日記を人目にさらすのは、黒崎ハーレムが完成してからだ。ソレまでは絶対に隠し通さなければならぬ。

ふう・・・今朝も充電完了だ。

黒崎、そしてソレを取り巻く攻めたちよ。今日も頑張ってくれ。
俺の萌えの為に。

（後書き）

2007年に書いたものです。
発掘したので投稿してみました。
不評でしたら下げたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4566r/>

黒崎一護観察日記

2011年3月29日21時56分発行